



1945年(昭和20年)10月上旬
菊池俊吉氏撮影、田子はるみ氏提供

壁面に刻まれた ヒロシマの証言……

爆心地から460㍍の位置にある袋町小学校は、原爆によって大きな被害を受けました。当時、多くの児童は疎開により被災を免れましたが、残っていた児童のほとんどが一瞬にして命を失いました。木造校舎はすべて倒壊・全焼し、唯一鉄筋コンクリート造だった西校舎だけが外郭のみ原形をとどめました。

被爆直後から被災者の救護所として利用された西校舎内の壁面には、被爆者の消息などを知らせる「伝言」が数多く記され、現在も残っています。

当資料館では、被爆建物として西校舎の一部を保存し、「伝言」をはじめ袋町小学校に残された貴重な被爆資料を展示とともに、被爆前後の学校の様子を紹介しています。



被爆により外郭のみ残った西校舎
菊池俊吉氏撮影、田子はるみ氏提供



利用案内 開館 9:00~17:00
休館 12月28日~翌年1月4日

問合せ 広島市教育委員会 TEL:082-504-2486
袋町小学校平和資料館 TEL:082-541-5345

HIROSHIMA PEACE TOURISM



ふくろ まち しょう がつ こう 袋町小学校 平和資料館



ひろしましりつふくろまちしょうがつこう
広島市立袋町小学校

被爆、その時…

1945年(昭和20年)8月6日午前8時15分、広島に史上初めて原子爆弾が投下される。このとき市内には約35万人の人々がいた。



米軍撮影、広島平和記念資料館提供

石だたみの電車通りには、いつものように暑い夏の朝の光を浴びて、のろのろ電車が、通勤客を乗せて走っていた。善良な人々の、長い夏の一日の活動が始まろうとする一瞬であった。

職員室で乗車証明書を書いていると、高いところからヒューという音がしてきた。大きな爆弾らしい、自分の頭の上に落ちてきたなと思って、急いで目と耳を押さえ、床に伏せ、さらに、机の下にもぐりこんだ。目を開いてみると、周囲はまっ暗である。じっと見ていると、一瞬ぱっと明るくなったので、『生きているか』と叫んだが、答える者はだれもいない。見ると、周囲に積んでいた職員図書や、さまざまな教材教具が、全部、東側の窓辺に吹き飛んでいた。

校庭に出てみると、ちょうど、夜明けぐらいの明るさであった……

袋町小学校創立100周年記念誌「ふくろまち」より

被爆により壊れた扉と窓



煤が付着している壁と天井



炭化した木れんががのこっている壁

救護所として

かろうじで焼け残った西校舎は翌日から被災者の救護所として、救護活動の重要な拠点のひとつとなった。



菊池俊吉氏撮影、田子はるみ氏提供

学校の再開

生き残った教員や町の人々の努力により、被爆から約10か月たつた1946年(昭和21年)6月、全児童37名でようやく再開された授業。



袋町小学校蔵

袋町小学校・袋町小学校平和資料館の沿革

明治 6年 2月 2日	新川場戒善寺に第一大区第四小区「就将館」として開校
9年 3月	現在地へ移転し、「桜川学校」と改称
23年 8月	「袋町尋常小学校」と改称
昭和 12年 2月 26日	西校舎落成
16年 4月 1日	「広島市袋町国民学校」と改称
20年 4月	学童団疎開により双三郡川西村など4村に疎開
8月 6日	原爆投下により西校舎の外郭のみ残し焼失
21年 6月	西校舎3階で授業再開
22年 4月 1日	「広島市立袋町小学校」と改称
47年 11月 3日	創立100周年記念式典
平成 14年 4月	新校舎・平和資料館完成
18年 11月	平和資料館入館者10万人達成
26年 10月	平和資料館入館者30万人達成



伝言文字が記載されている壁

この壁は、児童館(解体前)として使用されていた教室の黒板の裏にあったもので、被爆当時に書かれたと思われる伝言文字が残っている。

